

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる				
施策	1 - 1 公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	1	継続実施	5	見直し	1
各委員からの個別意見					
①	新庁舎の整備でインフラに目が行きがちだが、コンパクトシティ＝スマートシティへの実現はソフトの部分が大きな課題となり、目先ではなく、インフラが50年使えるとすれば50年先まで使えるソフト開発が必要だと思う。量子コンピューターが実用化すれば、堅牢と云われている暗号が破られると云われている問題はあるが、現在最も安全性が高く他の自治体で試験的に使われているブロックチェーンについての研究も必要と思われる。				
②	指標の見直しにあたり、見直し前の指標ではどうして目標値を達成しないのか施策の執行内容を検証する必要があるのではないかと。ではないと行政側の解釈で計画目標を達成するために変えるように見えてしまう。				
③	新庁舎整備用地に関して、果樹公園廃止反対の幟旗が掲出されている。さらに周辺住民への丁寧な説明が必要ではないか。				
④	公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出という施策そのものは継続実施でよいと考えるが、KPIの設定については見直し等を適宜行う必要がある。				
⑤	KPI①（公共施設の総延床面積）は計画自体も年間で1%未満の削減となっており、その根拠となる目標を考えてKPIとしての妥当性について確認する必要がある。				
⑥	KPI②（年少人口の転入人数）は、これ自体はKPIとして問題ないものであるが、目標値を根拠や将来の目指す形に基づいて再検討することでよいと考える。また、分析に「東大跡地の活用が年少人口の転入人数に直結しないため、次期計画では変更する」とあるが、この説明は目標値の見直しの説明としては、適していない。KPI③の説明であれば一定の理解ができる。				
⑦	KPI③（東大果樹園跡地を活用したイベントの実施数）については、新型コロナの影響から回復しつつある様子が伺えて、大変良い結果であると思われる。KPIとしてはイベント企画数（実施に至らずとも活用しようとする活動があればカウントする）でもよいように思う。				
⑧	KPI④（耐震未確認の地域社会施設数）で目標が0は厳しすぎたと思われ、何か確認などの活動を行ったのであれば、達成状況は「C」でもよかったのではないかと。また新しいKPIとして1地区1地域集会施設化があげられているが、これは公共施設のマネジメントにはなるが、新たな魅力の創出との関連性が不明瞭である。				
⑨	新たなKPIとしては、「図書館の利用数」などでもよいのではないだろうか。				
⑩	インフラの維持管理（健全度・状況）に関するKPIもあるとよいと考える。				
⑪	KPI②と③の指標の見直し案は、二宮町の魅力アップの指標なのか、東大跡地の利用活性化の指標なのかによって変わってくると思います。前者であれば、年少人口に限定せず、全体の転入人数、後者であれば、イベントの参加人数が指標になりうると思います。				
⑫	KPI④の指標名の見直し案は、「今後の方向性が定まっていない施設数」または「今後の方向性について地域と検討継続中の施設」としたほうが、住民と話し合いを続けていく町の姿勢を示すものとして適切ではないでしょうか。				
⑬	東大果樹園跡地の活用事業に対するK P Iの見直しはその通りと思いますが、見直し案となる「東大跡地利用団体数」（第3期総合戦略記載は「専用予約で利用した新規団体数」）は団体数が増えても活用度合いの測定に直結しない部分があると思われますので、イベント数を残し、新規団体数とイベント数の2項目測定が良いと思われます。				
⑭	東大果樹園跡地は登録団体の活用が主で、町民の活用はほとんどないかと思われます。もっと町民から関心を持ってもらえるような場所作りが必要ではないかと思えます。				
⑮	今後の人口減少を見据え、コンパクトシティを考慮した街づくりは大切な視点だと言える。公共施設の再配置や行政改革への取り組みは評価できる。地震対策や利便性などを考えれば、新庁舎の整備事業は喫緊の課題として取り組む必要があるのではないかと。				

施策に対する事前意見のまとめ① - 2

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施 策	1 - 2 地域で支えあう体制の構築
-----	--------------------

二宮町政策評価委員会としての「評価」					
--------------------	--	--	--	--	--

拡充	1	継続実施	4	見直し	2
----	---	------	---	-----	---

各委員からの個別意見					
------------	--	--	--	--	--

- ① 新しいシステムでコミュニティの組織強化に加えて伝統的なコミュニティシステムの見直しと活用を考える視点が必要だと思う。行政が企画したコミュニティについては予算が付くが、伝統的なコミュニティについては地域や人間関係による善意で行われているので、その評価を行い人的金銭的な支援も視野に入れる必要があるのではないか。
- ② 地域における独居老人へのサポートは個人情報取り扱いもあり簡単ではない。隣近所の付き合いも希薄になっている昨今、余程親密な関係にならないと高齢者には受け入れられない。今のところは民生委員さんがパイプ役になっているが相当な負担になっているのではないかと思う。
- ③ 地域で支えあう体制の構築という施策自体は重要であり、継続実施が望ましい。
一方、KPI②と④が削除された場合、新たなKPIの設定が必要であろう。
- ④ KPI④の手話通訳者養成講習会の参加者数があまり増えていないが、中高生の参加を促進するなどの取り組みを行うこととして、KPIとしては継続するのがよいのではないか。
- ⑤ 例えば、小学校通行時の旗振り（来年度から見直しがなされるとお聞きしている）への参加なども支えあうことになっているようにも思う。
- ⑥ KPI②の見直し案が「削除」となっているが、アウトカム指標がなくなってしまう。高齢化による要介護者数増は、ある程度仕方ないものの、高齢者人口の伸びよりも、要介護者の伸びが低く抑えられているなど、計画値を工夫したらいかがでしょうか。
- ⑦ 認知症予防や高齢者を社会で活用していく事業は、重点的に行っていくべきだと思います。
- ⑧ 資料で評価されている通り、K P I ②は事業成果に結びつく指標とは言えませんので削除には賛成。K P I ④を含め、施策と事業の成果を測定する指標は、より直結するものにするべきです。新たなK P Iとして「地域活動に参加している人の割合」に変更されますが、なにをもって「参加」にカウントするのか、地域活動イベント、例えば子ども食堂に来場した皆さんは対象となるのか、他イベントに参加した同一人物もダブルカウントするのか、とても難しいと思います。有効なK P Iとなるよう進めてください。
- ⑨ コロナウイルスの影響が残るなかでの様々な取組について成果が出ている点は評価できる。

施策に対する事前意見のまとめ①－3

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる				
施 策	1－3 地域コミュニティの醸成支援				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	2	継続実施	3	見直し	2
各委員からの個別意見					
①	町内会・自治会の役員のなり手が無く、人の好さに甘えて同じ人が同じ職や他の職にかわって長い間やっているケースが多く、地域活動に対する温度差が大きい。人口減少と共に役職を減らし、無用な行事（参加者が役員とその子弟のみで頭数を揃えている）を減らし、防災・防犯などの必須なものに集約してゆくべきと思う。町内会を止めた自治体があると聞くと、その実情がどうなっているのか非常に興味がある。				
②	地区役員のなり手不足に関して、地区のほうで見つけるとなると情報不足もあり苦労がある。地区の組織運営にも影響する案件なので行政側と連携した役員探しの取り組みはできないものかと思う。				
③	KPI①は、二宮町全体に範囲を広げて、住み続けたい住民の割合を調べ続けることが望ましいのではないかと。削除は情報収集の面から、ややもったいない。また、R4で%が大幅に減っているのが気になった。原因等があれば把握しておきたいところではないかと考える。				
④	KPI②、③については妥当な判断であると考えます。				
⑤	町民活動推進事業について、スタートアップ活用団体が少ないとのことだが、ステップアップ活用団体にそれなりの数があります。ポイントはいかにこういった団体の活動が継続していけるかであると思います。補助がなくても、自立して活動していく道筋をたてていくこと（資金調達、人材確保）が必要だと考えます。				
⑥	会議での議論を聞いていて思ったのは、自治会関係の行事や業務をスリム化して担い手を確保していくことが必要ではないでしょうか。				
⑦	一色地区の成功例は成果としては残りましたが、其他地区の成果が見えず、K P I ②の「地域活動に参加している人の割合」も伸び悩み、K P I ③も削除という結果においては根本的な見直しが必要と思われます。課題として各地区の自治会運営におけるなり手不足が深刻な問題として記載されていますが、これが時代の動きとして捉える必要があります。自治会という組織参加への拒絶感や逃避は当たり前と考える一方で、助け合い支え合う必要性は理解する中で、どのような運営が良いのか、そこに行政はどのように支援できるのか。第3期総合戦略の中でもK P I「地域活動へ参加している人の割合」は引き継がれますが、数字遊びにならないよう地区長連絡協議会などの意見を取り入れて、成果の見えるK P Iを考えてください。				
⑧	地域のコミュニティの醸成には住民の協力が欠かせない。住民が積極的に企画の提案や地域コミュニティ活動に参加できるような環境を作っていく必要があるのではないかと。				

施策に対する事前意見のまとめ② - 1

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる				
施策	2 - 1 二宮らしい魅力の創出と発信				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	1	継続実施	5	見直し	1
各委員からの個別意見					
①	他の自治体の良いところを取り入れて施策を組むのもよいが、二宮らしいを強調するなら独自のものを表現していないと日本全国同じようなことをやっているのでは埋没してしまう。				
②	令和5年3月策定の二宮町観光まちづくり戦略を踏まえて、町内の活性と消費につながるイベント開催などを具体的に仕掛ける部署、実行するための団体等の人材育成を強化する必要があると思う。				
③	入込観光客数は、根拠を明確にした実績値としてください。				
④	本施策については、特に意見があるわけではないものの、印象として、KPIの計画設定が厳しすぎていて、実際は十分に結果が出ていると評価されてもよいレベルであるように思われる。				
⑤	施策内容「関係人口や定住人口を増やす」のが目的ならば、既存の指標の入込観光客数とともに、転入人口（又は転入増をキープ等）も指標とすべきではないでしょうか。				
⑥	図書館の年間貸出者数は増えている。一方、県内市町村で多く導入が進んでいる図書館のオンライン貸出に、取り組んでいくことが必要と思います。				
⑦	様々な取り組みが行われ十分な成果が出ているので、今後はさらに住民の意見を参考に取り組みを継続していけば良いと感じた。				

施策に対する事前意見のまとめ② - 2

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる				
施 策	2 - 2 特色ある教育活動の推進				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	0	継続実施	5	見直し	2
各委員からの個別意見					
①	<p>学校教育については実情が分からないが、ざっと概要に目を通してみると傑出した人物を輩出するようなプログラムになっていないと思う。例えば英語検定3級を取得するのも悪くないが、この子たちが大人になって海外の人たちと仕事その他で交流するところには、主要な言語の自動翻訳精度は格段に上がっていて母国語さえ熟知していれば用が足りるまでになっているわけで、例えばプラトンや孔子などの古典を、中学生のころから精読して馴染んでおいた方が、良く目標に掲げられる「世界で通用する人材」になるのではないかと。</p>				
②	<p>指標の将来に夢や目標を持っている児童生徒の割合を、教育施策の認知度に見直しをするが適切な指標とは思えない。児童生徒自身が評価する指標があっても良いと思う。再検討したらどうか。</p>				
③	<p>KPI①（中学3年生の英検3級取得率）が著しく減少している。もしコロナ感染症の影響で試験実施数が従来より減っているのであれば目標数を下げて評価してもよかったですのではないかとと思われる。一方、このKPIは削除でもよいのではないだろうか。英語教育推進の度合いの確認指標としては、外国人による講義や交流事業の実施数や学生参加者数などでもよいのではないだろうか。</p>				
④	<p>KPI②（将来に夢や目標を持っている児童生徒の割合）については、どのように調査がなされているのかが気になるが、モニタリングするデータとして貴重であり、削除とするのはややもったいないような感じがする。ただ、目標値の設定が極めて困難な数値であり、削除とする意図も理解できる。</p>				
⑤	<p>KPI②の指標の見直し案は「教育施策の認知度」となっているが、施策を周知するのが目的ではないと思います。指標を見直すのであれば、意識調査が必要かもしれないが、現在の教育への満足、不満足度ではないでしょうか。調査ができないなら元のままで計画値の立て方を変えるのもありではないでしょうか。（例えば「前年度よりプラス1%増」など）</p>				
⑥	<p>K P I ②「将来に夢を持っている児童生徒の割合」は心象的には心を打つ言葉ですが、記載の通りに施策内容である小中一貫教育などの特色のある教育活動の進捗指標としては難しかったことは同感します。その上での目標値見直し案としての「教育施策の認知度」はどのような指標なのか、前回の会合で配布された第3期総合戦略では「コミュニティスクールの認知度」及び「小中一貫教育の認知度」とされました。「聞いたことはあります」、「概要は理解しています」、「理解したうえで意見があります」、「理解したうえで反対です」、「賛成します」、「反対します」、これらは全て「認知」のカウントになるのでしょうか。認知度も持って進捗を測定するのは非常に曖昧です。判り易いK P I に変えるべきです。</p>				
⑦	<p>語学力やICT環境の整備など現在の社会情勢に合った教育活動への取り組みは評価できるが、特色があるというよりは標準的な内容だと感じた。二宮町の特徴を活かした特色ある教育環境を作ることによって魅力ある街づくりに繋がるのではないかと。</p>				

施策に対する事前意見のまとめ③ - 1

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる				
施策	3 - 1 妊娠から子育てまでの切れ目のない支援				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	1	継続実施	6	見直し	0
各委員からの個別意見					
①	核家族で初めての子供が生まれた時にはお母さんは孤立感が強く、子供のちょっとした変化にも本当に不安が大きいと思う。多角的に支援体制が出来ているように見受けられ大変いいと思う。				
②	本施策については、順調なご対応・実施ありがとうございます。				
③	KPI①の見直しについては妥当である。ただ、達成状況「B」は厳しすぎる。目標が高すぎるのであり、「A」としてよいレベルである。				
④	KPI②のR4の値が大きく低下している要因が気になる。				
⑤	KPI③の見直しについては妥当と考える。				
⑥	乳幼児全戸訪問事業は、支援が必要かどうか把握できる貴重な機会なので、全戸にコンタクトできるように工夫いただきたい。				
⑦	相談したい方がコンタクトしやすい環境を整備するのが肝要であり、この点でK P Iをサポート率とする視点は良いと思います。このサポート率測定をどのように設定し全体を網羅するのかがキーとなります。全体網羅には時間がかかり試行錯誤も必要と思いますので、時間をかけて議論を重ね、有効なK P Iに作り上げていくことになると思います。				
⑧	乳幼児健診は3歳児健診の後、就学前健診となっている。任意の5歳児健診を町でも実施したらどうか。				
⑨	KPIの計画地に達していない項目もあったが、概ね順調に計画が進んでいる印象を受けた。				

施策に対する事前意見のまとめ③ - 2

施 策		3 - 2 仕事と子育ての両立支援			
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	0	継続実施	7	見直し	0
各委員からの個別意見					
①	<p>順調で大変いいと思います。今後問題が出て来るとすれば外国人への対応、例えばイスラムの人たちは、宗教や習慣文化が全く違うので、対応する方が、そういったことに習熟していないとトラブルが起こりそうです。</p>				
②	<p>本施策については、取り組みやご対応を頂きありがとうございます。意見は特にありません。多子家庭への支援を引き続き検討頂けたらと考えます。</p>				
③	<p>次期となる第3期総合戦略において見直おされるK P I「学童保育所の待機児童数」を含め、すべてのK P Iは行政側の理屈による成果指標であり、他の施策K P Iの傾向である「利用者側の要望・希望に基づくサポート率評価」の指標がありません。検討してください。</p>				
④	<p>KPIの計画地に達していない項目もあったが、概ね順調に計画が進んでいる印象を受けた。</p>				

施策に対する事前意見のまとめ④ - 1

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策	4 - 1 地域商工業の活性化
----	-----------------

二宮町政策評価委員会としての「評価」

拡充	2	継続実施	4	見直し	1
----	---	------	---	-----	---

各委員からの個別意見

- ① 車社会の特徴でもありますが、単独店で努力をされ成功しているお店は点在していますが、商店街の賑わいが戻らないのが残念です。住民のコミュニティ強化はコミュニティ施設だけを考えず、商店街を一つのコミュニティプレイスとして、商品と同時に情報の交換の場として捉え、公私の峻別が難しいとは思いますが、支援して行くことも考えていいのでは。
- ② 指標の二宮ブランド新規認定商品数を見直しすることは適切であると思う。が、見直し案の二宮ブランドの認知度で評価するのは難しいのではないか。（どれだけのエリアでどれだけの人がどのような基準で評価するのかが見えない。）
- ③ 町民の高齢化とともに事業主の高齢化や後継者の問題等で廃業する店舗が増加している。このような状況の中で、町内でキャッシュレス決済を導入する施策には、事業者の意向を把握したうえで行政側の積極的なアプローチと支援策（導入費用の負担軽減を図る補助金など）が必要と思う。
- ④ KPI②（二宮ブランドの新規認定商品数）の達成状況「C」は厳しすぎる気がします。認知度への見直しは異存ありません。
- ⑤ 起業開業件数、雇用創出数などアウトカム指標があると事業の効果が見えやすいと思います。
- ⑥ 会合でも話題になりましたキャッシュレス決済の拡充について、第2期総合戦略の施策として明記されましたがK P I などの推進の仕組みはなく、環境として必要な時期であったコロナ期を経ても何も進みませんでした。コロナ期が静まりつつあるが、咽頭結膜熱（俗称プール熱）など接触感染性感染症が拡大し、現金決済を常とするお年寄りの皆さんには大きなリスクが続き、特に高齢者に適したキャッシュレス決済の導入は今をもっても大変重要な施策と考えます。第3期総合戦略ではキャッシュレス決済の導入支援と一歩踏み込んだ施策表記がなされました。会合ではジョイカードの更新の時期にとの意見はありましたが、ポイントカードの類であることを継承するならば意味はなく、クレジットまたはプリペイド機能などの融合が必要となります。施策としての難易度は低くはありませんが、商工会へのエールを含めて進捗 K P I を設定すべきと考えます。但し、商工会への丸投げは無いように。
- ⑦ 二宮ブランドについて、神奈川県内の他の市町村で話を聞く機会がないので知名度がまだ低いと思われる。企業などの力も借りながら積極的にブランドを展開していく必要があると感じた。

施策に対する事前意見のまとめ④－ 2

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる				
施 策	4－2 地域農林業の活性化				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	2	継続実施	4	見直し	1
各委員からの個別意見					
①	二宮では農業だけで食える大規模農業への転換は無理と思われるので、有機野菜や特産品などの付加価値の高いものを作ってゆくこととなりますが、その場合は小規模になるので市場への出荷が難しく、販路の確保が重要と思われ、出来れば消費者にダイレクトに販売できることが望ましく、その販路確保の支援が必要ではないかと思えます。				
②	遊休農地対策では、新規就農者やオリーブ等の特産物栽培者を対象にした遊休農地活用マッチング支援を推進してください。				
③	KPI①（新規就農者数）の達成状況「C」は厳しすぎると思えます。「B」でよいと考えます。				
④	KPI③（有害鳥獣の捕獲数）は減ることはむしろ安全であることを示しており、よいことではないか。新しい指標（遊休荒廃地の復元整備支援件数）は妥当であると考えます。				
⑤	オリーブを町の特産品にするためには、知名度アップ、生産数や販売数の増が必要だと思えます。いろいろ取り組まれているのは承知していますが、住民も巻き込んで町全体で盛り上げる気運を作っていく必要があると思えます。				
⑥	KPIの実績は計画値に達していないものの取り組みの内容は評価できる。オリーブと落花生を町の特産品にするなら、もう少し重点的に生産者をバックアップする体制が必要だと感じた。				